

1 総 説

一 はじめに — 本書が収録した範囲 —

本書は、鎌倉時代に武家の都鎌倉で活動した官僧、将軍家御願寺の役職に就いた僧、鎌倉で官僧から伝法灌頂を受けた禅律僧まで九四九名の経歴を整理した人名事典である。この範囲には、陰陽師系の宿曜師も含めている。採録の基準は、以下のとおりである。

一 将軍家御願寺及び顕密仏教寺院で活動した者、及び将軍御所に護持僧・験者として出仕して法会・修法・加持祈禱を勤めた者

二 鎌倉で武家鎮護ないし将軍家・鎌倉幕府護持のために顕密仏教の法会・修法及び加持祈禱を行った者、及び官僧として法会・修法の役を勤めた者

三 鎌倉で官僧から伝法灌頂を受けた地方の僧侶及び禅律僧。ただし、禅律僧については伝授を受けた本人までとした。天台寺門流は本山に上って伝法灌頂を受けるのが慣例であるが、真言は鎌倉でも伝法灌頂を行うので、広義でとらえた中世都市鎌倉の文化圏で官僧から伝法灌頂を受けた僧侶はこれに含めた。

鎌倉の顕密仏教は、京都・奈良の本山から教相・事相を学ぶことから始まっている。鶴岡八幡宮が創建されるまでは鎌倉で護国の祈禱を行う必要がないので、何もないところからの出発と考えてよい。

鎌倉で活動した上層部の学侶は、鎌倉に成立した宗教社会が武家政権と共に成長していく上で主導的な役割をはた

すために、本山である京都・奈良の寺院との関係を維持しながら活動を続けた。草創期は、園城寺が指導的な役割を任った。これに次ぐ階層を形成するのが、鎌倉での活動を中心とし、僧官僧位や伝燈阿闍梨（伝法灌頂を授けて血脈に記載され、法燈を継承する僧侶を育てる資格を持つ人）の地位を得るために、一時期上洛した人々である。ここまでは、京都・奈良との関係を持つ人々である。

その次に、鎌倉の武家社会の中で活動し、そこで生涯を終える人々がいる。鶴岡八幡宮をはじめとした鎌倉の社寺の供僧には、鎌倉で活動する人々から教えを受けた受法（受明灌頂）までで伝法灌頂も受けず、血脈に記載されない人々が多くみられる。受法の師の推挙やさまざまな縁で僧官僧位を授けられたが、京都での活動が見いだせない人々である。この階層の人々は、法眼で昇進が頭打ちになっている。京都で法会・修法の導師を勤めるには法印（公卿相当）以上の地位が必要であるが、人材不足の鎌倉では法会・修法を運営できる実力があると認められれば、僧綱の地位に達していない栄西大法師でも勤めることができた。

その次に、伝法灌頂を受けるために鎌倉に滞在した地方の僧侶や、密教を学ぶために官僧の弟子となった禅律僧がいる。称名寺聖教によって官僧と律僧とのつながりが明らかになっているが、平安仏教の中に内包されている禅を根拠に顕・密・禅の兼修が可能であると説く（『興禅護国論』）栄西の法流は、新出資料の研究によって密教僧の姿が明らかになってきた。天台密教葉上流（臨濟禅を兼修した人々）も本書では密教僧の枠組みの中に含めている。

鎌倉で活動する顕密仏教の官僧は、将軍御所・鶴岡八幡宮以下の将軍家御願寺、鎌倉に設けた院家や自坊、新たに創建された寺社で活動した。彼らの活動の中心は将軍御所・鶴岡八幡宮なので、密教寺院や院家・坊は大倉や武蔵大路など東海道に出やすい場所、「鎌倉中」北部及び西部に集中した。顕密仏教僧が日常的に活動するエリアとみなせる地域である。